誠実と熟慮断行の人

河本敏夫

大平さんとは三木内閣以来都合四年間、閣僚として、また党役員として一緒に仕事をし、終始ご指導をいただいてまいりました。その数々の思い出のなかでも特に鮮烈な記憶に残っているものの一つに、昭和五十二年度の予算修正のことがあります。

当時は伯仲国会で、予算委員会は一兆円減税をめぐって大変緊迫した場面でありました。この時、大平さんは幹事長として野党との折衝に当たられ、私は政調会長としてお助けをしておりました。大平さんは政府と党が用意していた三千億円という修正枠を、全額なんの駆け引きもなしにずばりと野党側に提示し、一挙に与野党間の合意が得られたということがありました。

さらに昭和五十四年度の予算修正の際は、大勢は形式修正も止むなしというところを、大平さんは最終段階で実質修正にするという決断をされたわけでありますが、今から考えますとやはりこの方が良かったと思います。

それから昭和五十四年の夏、総選挙前のことでありますが、当時は一般消費税を創設するかどうかが非常に大きな課題でありました。党内の意思も大きく分かれたのでありますが、大平さんは最後に、税の自然増収も相当期待できるので昭和五十五年度からの一般消費税は創設しないと決められました。それに至る経過等については非常に印象に残ることが多かったのを忘れることができません。

心に思い浮かぶいろんなことを綴り合わせてみますと、誠実と熟慮断行の人というのが大平さんの人間像では

ないかと思います。決断するまでは非常に慎重であるが、一旦決めたことは断固として、しかも誠実に実行するという人間性豊かな人でありました。

ゴルフも大変お好きで箱根で一度お供をしたことがあります。また、暇があれば本屋へ出かけ、本の背表紙を見て心の安らぎを覚えるほど心のゆとりのあった大平さんが、晩年、ゴルフも読書もままならぬ苛酷な日程に追われ、まことに壮烈ともいえる最期を迎えられました。

思い出は尽きませんが、心からご冥福をお祈り申し上げる次第であります。

（衆議院議員・経済企画庁長官）